

<牧会ミニ通信>No.2

・周東のぞみ教会のみなさんは如何お過ごしでしょうか。お身体は大丈夫ですか、気持ちが落ち込んでいませんか、イライラはありませんか、お会いできるまで、今少しの忍耐が必要かと思われます。それまでお互いを覚えて日々祈りましょう。

・100年前、スペイン風邪が大流行しました。世界中で5億人が感染し、一年間に5千万人が死亡した歴史上最悪の「パンデミック」(世界的大流行)でした。当時の人々はどう耐え抜いたのでしょうか。信仰者であるからと言って特別な守りがあったとは思われません。多くの者が感染して死者が出ました。親たちはわが子の救いを覚えて洗礼を急いだともいいます。

・「神の摂理」を覚えて、この試練を乗り越えねばなりません。

ハイデルベルグ問28「神の創造と摂理とはなんですか」一、「わたしたちが逆境においては忍耐強く、順境においては感謝し、将来については、わたしたちの真実な父なる神をかたく信じ、どんな被造物も、この方の愛からわたしたちを引き離すことはないと確信できるようになる、ということです。なぜなら、あらゆる被造物はこの方の御手の中にあるので、御心によらないでは、動くことも動かされることもできないからです」アーメン。

・周東のぞみキリスト教会は、国や市の行政指導に従い、指示があり宣教の働きを停止しました。感染が拡大している中で、何よりも隣人の命を大切に覚え、家にとどまり、祈り過ごすことが、このような危機の中で大切であります。世界で起きていることは、いずれ日本でも起きることです。今後、思いもよらない逆風が吹くとも限りません。しかし、同時に素晴らしい回復の兆しをも耳にすることもあるでしょう。

今は、互いにケアすること、特に弱い方々をケアすることが必要です。

そして、何より人の命を大切にし、隣人の安全を守るために、行政のガイドラインに従い、祈りつつ、この非常事態を乗り越えねばなりません。

2020年4月26日

周東のぞみキリスト教会：牧師 結城 晋次